

熊谷税務署長賞

税について思うこと

深谷市立豊里中学校 二年 安田 明弘

僕は、一口に税といってもたくさんの税があることに驚かされます。身近なものでは消費税などです。

僕はこれらの税がどのようなところで使われているのか考えてみました。水道、電力、学校、公共施設、医療などたくさんあります。これらは僕たちの生活を支えてくれて、老後には年金として僕たちの暮らしを支えてくれるのです。

「教育・勤労・納税」これは国民の三大義務というものです。これは、国が豊かになるためにはまず個人が豊かであることが大切だということをいっています。僕は、これはとてもすばらしい文化だと思います。

国民は教育を保障され、たくさんの知識を得ます。そして、学校行事などによっていろいろな体験をし経験をします。そして、いろいろな能力を身につけ仕事につき働いて納税します。国民から集められた税金は国民のためにいろいろなところで活用されます。それによって国も国民も豊かになります。生活が豊かになります。生活が豊かになれば、それによって気持ちの余裕ができます。それによっていろいろな文化も発達していくと思います。この仕組みによって安定した生活をしてこれたのです。このように税金は今の僕たちの生活のなかでなくてはならないものになっているのです。

しかし今大きな問題があります。それは少子化と高齢化です。どんどんお年寄りが増えるいっぽう子供が減っています。これにより今まで税金で維持されてきた保障を続けることが大変になります。その時代を支えていくのは僕たちで、お年寄りとは、おじいちゃん、おばあちゃん、お母さん、お父さんです。僕たちが平和に暮らせているのは、お年寄りたちが支えてきてくれたからです。そして、僕たちはこれからお年寄りたちが築き上げてきた税の文化を次の世代に渡すことが僕たちの使命だと思います。

一人一人が納めた税金は形を変えて、ゆとりのある豊かな社会を支える一部となり、また自分自身にも返ってくるのです。僕たちは国に守られています、国は僕たち国民が支えているのです。僕は国民としての自覚を持ち、一人一人が責任と義務を果たし、きちんと納税して、税金の活用についてしっかり考え、今を生きている国民としてしっかり行動していきたいです。